

官佛蘭西
法律書

訴訟法

六

CF2
3
07

共八本

東京圖書館	
新	門一四
部一一	架二
類	號六九九四

明治七年一月刊行

權大内史箕作麟祥譯

第六卷

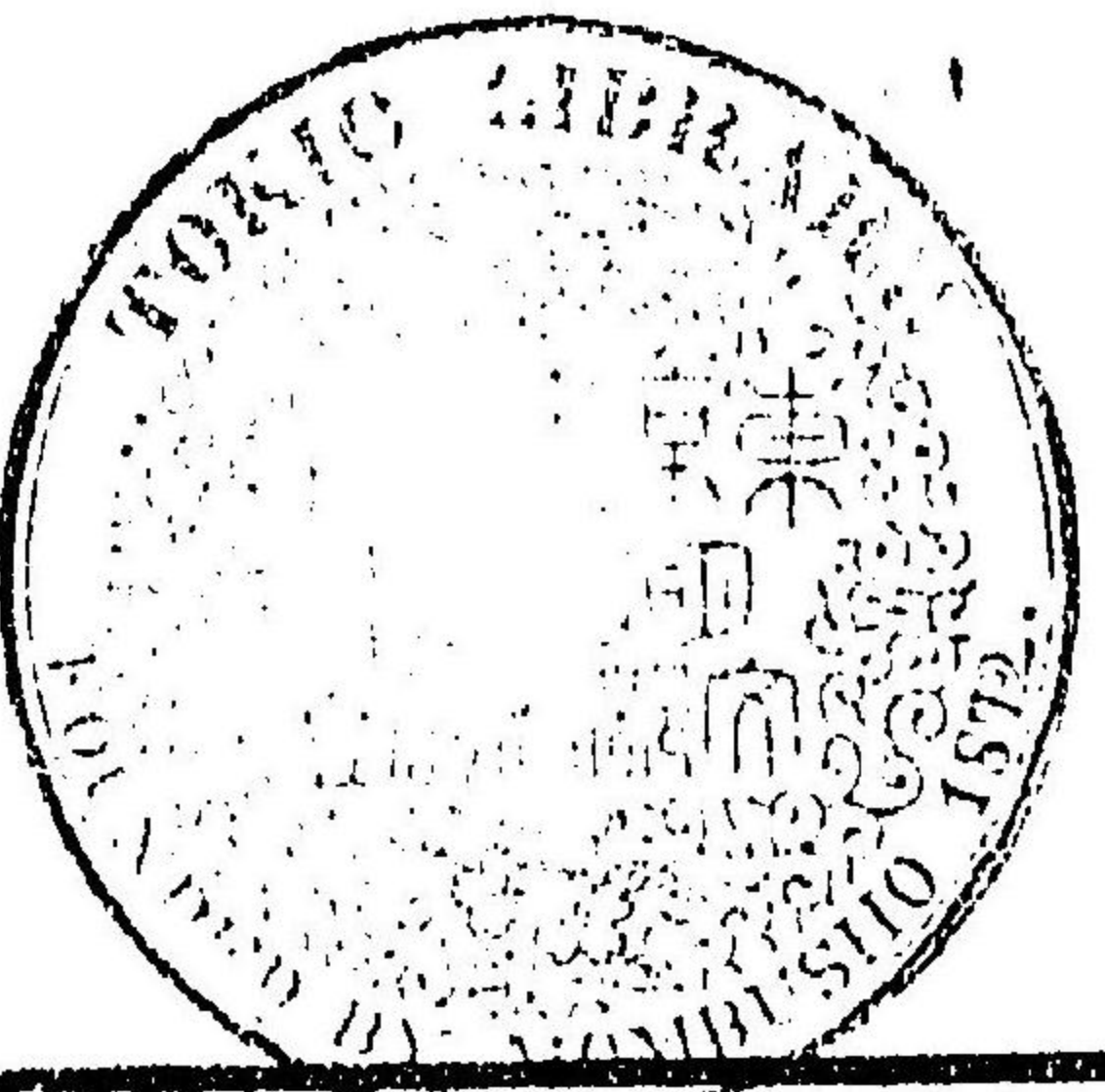
佛蘭西法律書 訴訟法

文部省

明治七年文部省發行

佛蘭西法律書 訴訟法第六

權大内史箕作麟祥 譯



CF 3 07

訴

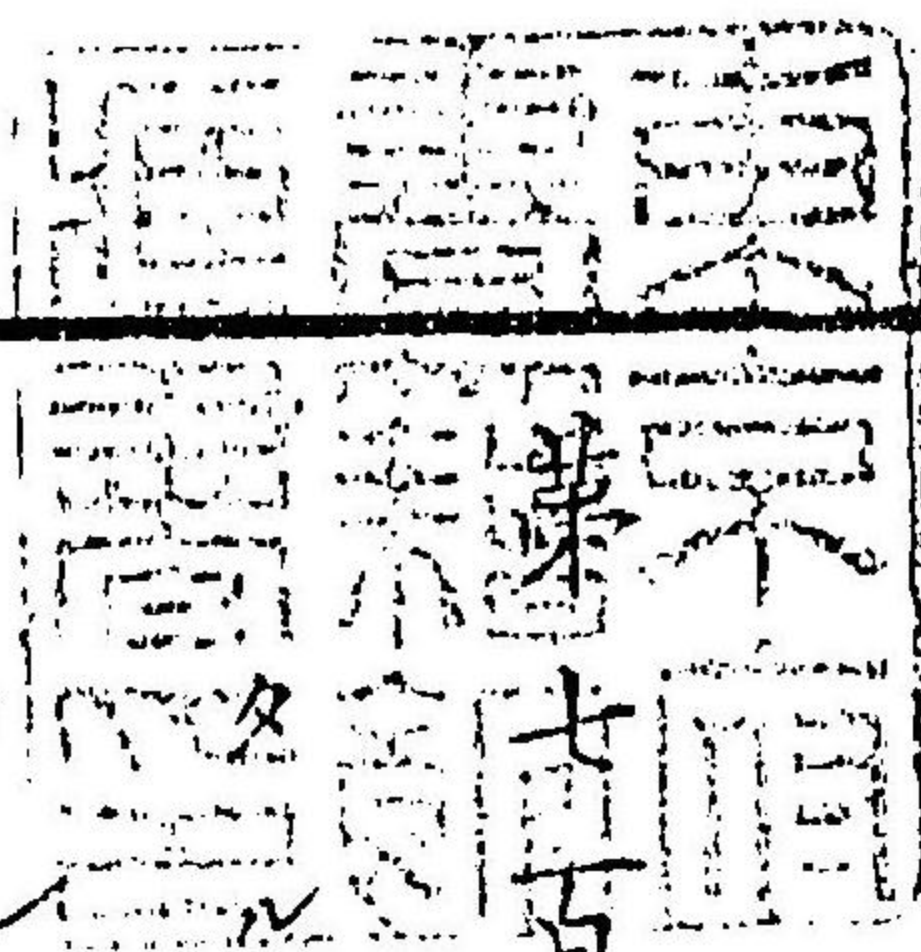
○第十三章 不動産差押ニ付キ附帶ノ

第七百十八條 總テ不動産差押ノ訴ニ附帶シ

訴ヲ為ス者ハ其憑據ト其願旨トヲ記シ

タル招書ヲ已レノ代書師ヨリ相手方代書師

ニ送ラシメテ之ヲ為ス可シ○又代書師ヲ任



佛蘭西法律書

上篇第五卷第十三章

文部省

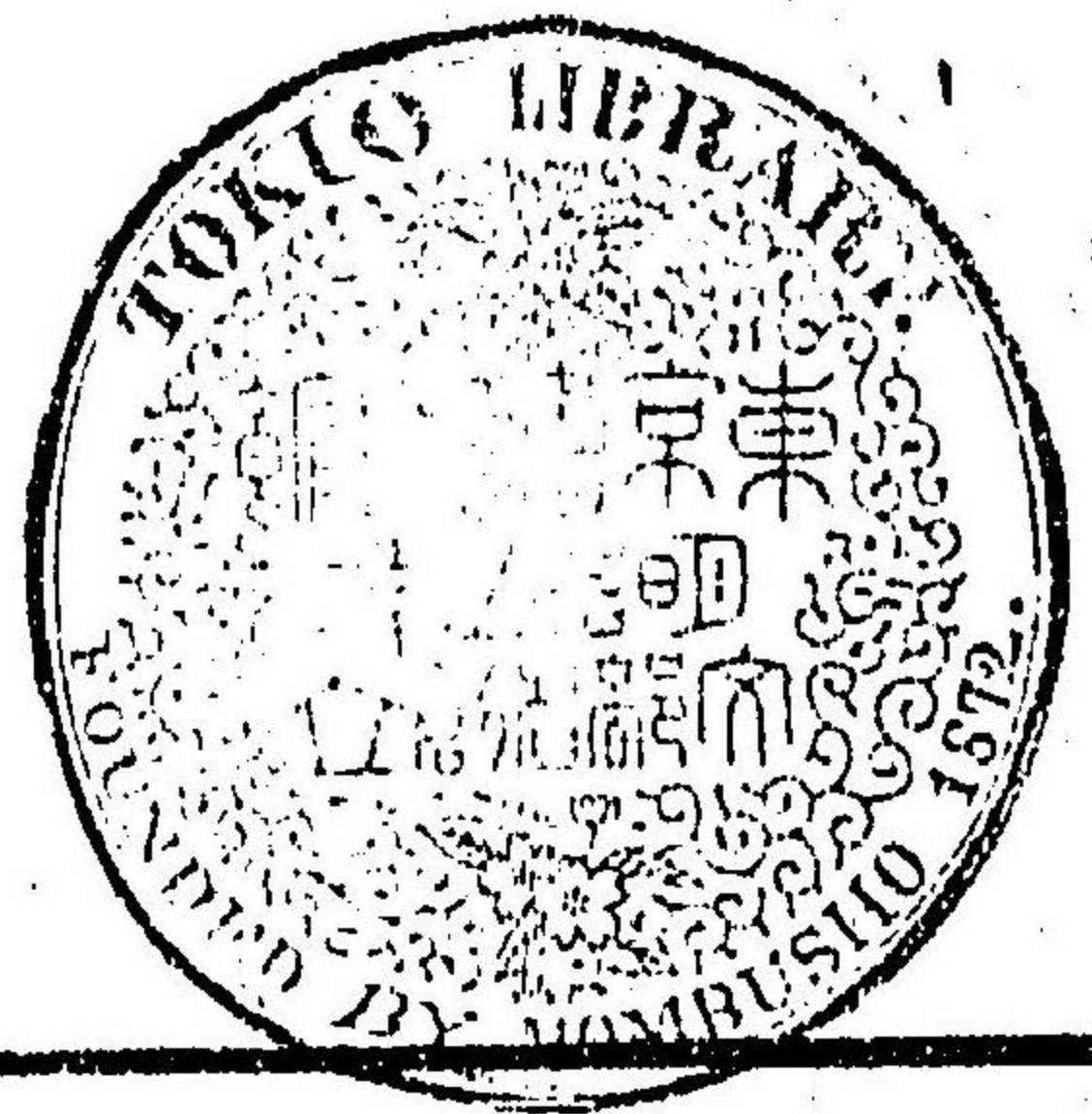
明治七年一月刊行

權大内史箕作麟祥譯

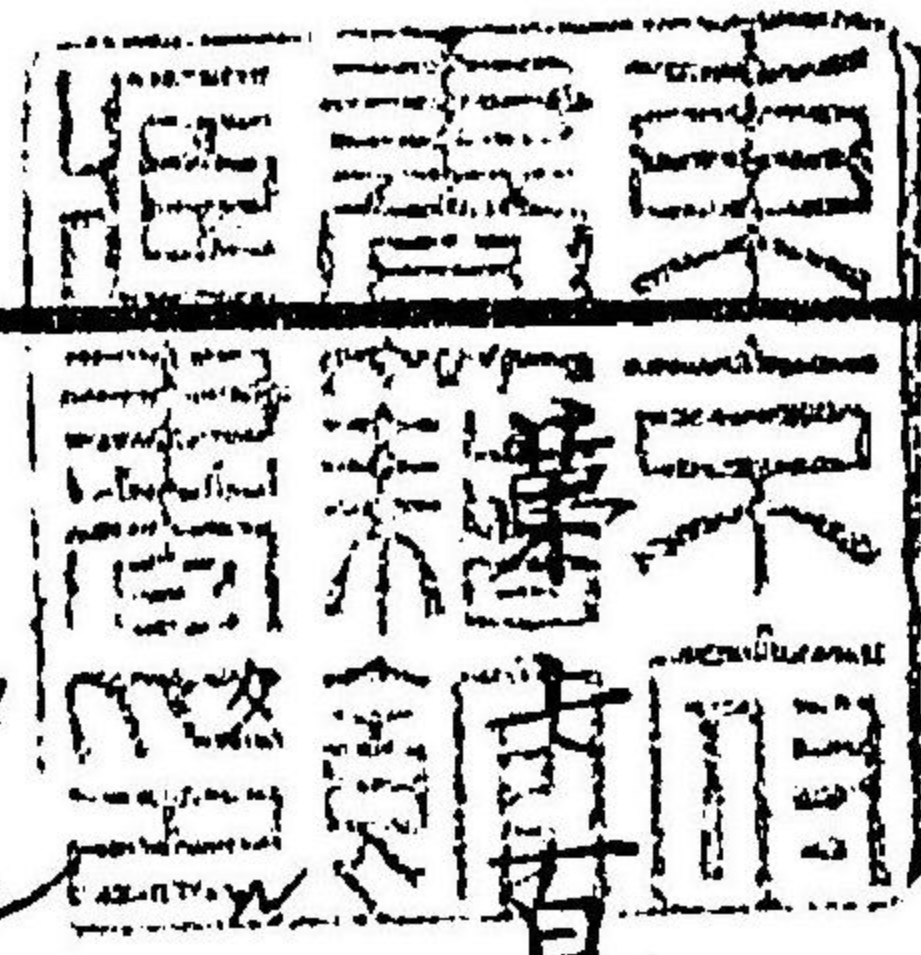
第六卷

佛蘭西法律書 訴訟法

文部省



CF2
3
07



佛蘭西法律書 訴訟法第六

明治九年文部省交付

權大内史箕作麟祥 譯

○第十三章 不動産差押ニ付キ附帶ノ

訴 十八條 總テ不動産差押ノ訴ニ附帶シ
訴ヲ為ス者ハ其憑據ト其願旨トヲ記シ
招書ヲ已レノ代書師ヨリ相手方代書師

ニ送ラシメテ之ヲ為ス可シ○又代書師ヲ任

佛蘭西法律書 第六卷 上篇第五卷第十三章 一 文部省

セサル人ニ對シテ此訴ヲ為スニハ第七百二十六條ニ記シタル場合ノ外總テ距離ノ割合ヲ以テ日數ヲ増ス_一ナク八日內ニ裁判所ニ出席ス可キノ呼出狀ヲ本人ニ送ル可シ但レ此訴ニ付テハ和解ノ法式ノ為スニ及ハス○此訴ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且之ヲ裁判ス可シ○此訴ノ裁判言渡ハ必ス檢察官ノ申立ヲ聽キタル上ニ非レハ之ヲ為ス可カラス

第七百十九條 若シ一人ノ負債者ニ屬スルニ

箇ノ不動産ノ差押ヲ債主二人ニテ同一ノ裁判所ニ訴ヘ其差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシメタル時ハ其債主中ノ一人ヨリ其二箇ノ差押ヲ合同セント訴ヘ其許ヲ得タル上先ニ差押ヲ為シタル債主其合同シタル差押ノ手續ヲ繼續レテ為ス可シ○然レ其合同ノ訴ハ既ニ糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ出シタル後之ヲ為ス_一ヲ許サス○若シ二人ノ債主同時ニ差押ノ訴訟ヲ為シ始メタル時ハ其二人ノ債主ノ代書師中ニテ最モ古キ證

書ヲ有スル者其合同シタル差押ノ手續ヲ為シ若シ又其證書ノ日附相同シキ時ハ先キニ其職ニ任セラレタル代書師其手續ヲ為ス可シ

第七百二十條 第二次ノ不動産差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシムル為メ差出シタル時其差押ノ調書ニ記スル所ノ不動産第一次ノ差押ノ調書ヲ記スル所ノ不動産ヨリ更ニ多分ナルニ於テハ第二次ノ差押ノ調書ニ記スル所ノ中ニテ以前ノ差押ヨリ更ニ多分ナル

ル不動産ノミテ差押ユル旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記シ第二次ノ差押ヲ為ス債主ヨリ其由ヲ第一次ノ差押ヲ為シタル債主ニ報告シ其二箇ノ差押既ニ同一ノ訴訟手續ニ至リレ時ハ第一次ノ差押ヲ為セシ債主其二箇ノ差押ヲ合同シテ手續ヲ繼續ス可シ若シ又其二箇ノ差押未タ同一ノ訴訟手續ニ至ラサル時ハ第一次ノ差押ノ手續ヲ暫ク延引シ第二次ノ差押ヲ之ト同一ノ手續ニ至ラシメタル上ニテ第一次ノ差押ト合同シテ其訴訟手續ヲ繼續

ス可シ

第七百二十一條 前條ノ場合ニ於テ第一次ノ
 差押ヲ為シタル債主第二次ノ差押ヲ為シタ
 ルノ報告ヲ得テ猶其二箇ノ差押ヲ合同シテ
 手續ヲ繼續スルコトヲ為サハル時ハ第二次ノ
 差押ヲ為シタル債主ノ代書師ヨリ第一次ノ
 差押ヲ為シタル債主ノ代書師ニ招書ヲ送り
 第一次ノ債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セシ
 ト訴フルコトヲ得可シ

第七百二十二條 又第一次ノ債主密カニ負債

者ト謀リテ不正ノ處置ヲ為シ又ハ詭欺ヲ行
 ヒ又ハ懈怠シタル時ハ第二次ノ債主之ニ代
 テ差押ノ手續ヲ繼續セント訴フルコトヲ得可
 レ但シ第一次ノ債主密カニ負債者ト謀リテ
 不正ヲ行ヒ又ハ詭欺ヲ為シタル時ハ第二次
 ノ債主ニ相當ノ損失償ヲ為ス可シ
 第一次ノ債主訴訟ノ法式ヲ為サス又ハ定期
 内ニ其手續ノ書類ヲ記セサル時ハ之ヲ懈怠
 ナリトス

第七百二十三條 第二次ノ差押ヲ為ス債主第

一次ノ差押ヲ為ス債主ニ代テ差押ノ手續ヲ
 繼續セント訴へ負訴訟トナル時ハ其訴訟ノ
 費用ヲ自カラ擔當ス可キ言渡ヲ受ク可シ
 第二次ノ差押ヲ為ス債主第一次ノ差押ヲ為
 ス債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續ス可キノ言
 渡ヲ得タル時ハ第一次ノ債主其手續ヲ為ス
 ニ必要ナル證書類ヲ第二次ノ債主ニ渡シ其
 受取書ヲ取り置ク可シ但シ第一次ノ債主ハ
 不動産羅賣ノ後ニ非レハ代金中ヨリ其訴訟
 ヲ為シタル費用ノ償ヲ得カラス又其後ニ

非レハ買入人ヨリ其費用ノ償ヲ得可カラス
 第七百二十四條 若シ一人ノ債主ノ調書ノ記
 入ヲ役所ノ簿冊ヨリ塗抹レテ之ヲ取消シタ
 ル時ハ他ノ債主等其差押ノ調書ヲ役所ノ簿
 冊ニ登記シタル順序ヲ問ハス其中ニテ最モ
 先キニ手續ヲ為ス債主其差押ノ手續ヲ為ス
 可ク得可シ
 第七百二十五條 債主負債者ノ財産ナリトシ
 テ差押ヘタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ他人
 己ノ財産ナリトシテ其差押ヲ免レシメント

スルノ訴ハ差押ヲ為シタル債主ト負債者ト
 ニ對シテ之ヲ為ス可ク且債主中最初ニ其書
 入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル者
 ニ對シ其訴ヲ為シ又ハ其者ノ別段擇ミタル
 住所ニ其訴ヲ為ス旨ヲ報告ス可シ
 若シ負債者別段代書師ヲ任セサル時ハ其住
 所ト裁判所所在ノ地トノ間五^リヤメートル
 毎ニ其出席ノ日數ニ一日ノ猶豫ヲ増ス可
 シ但シ佛蘭西本國外ニ在ル者ニ付キ別ニ其
 猶豫ノ期限ヲ増ス^トナカル可シ

第七百二十六條

前條ニ記シタル訴ノ書面ニ
 ハ其訴ヲ為スノ憑據タル證書ノ大略ヲ附記
 シ且其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタル
 旨ヲ記シタル書面ノ文ヲ附記ス可シ

第七百二十七條

若シ債主ノ差押ハタル財産
 ノ一部ノミニ付キ他人同上ノ訴ヲ為シタル
 時ハ其訴ニ管セス其他ノ部分ノ糶賣ニ取掛
 ル可シ○然レ裁判所ニテ其差押ニ管係アル
 者ノ求ニ從ヒ其差押ハタル財産ノ全部ノ糶
 賣ヲ暫ク猶豫スルノ許ヲ為ス^トヲ得可シ

裁判所ニテ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ニ付キ他人ノ訴ニ從ヒ其差押ヲ免スルノ言渡ヲ為シタル時ハ是迄糶賣ノ手續ヲ為シタル債主糶賣ノ箇條書ニ記シタル附ケ直段ヲ變スルヲ得可シ

第七百二十八條

不動産糶賣ノ箇條書ヲ公ケ

ニ為ス以前為シタル訴訟ノ手續ノ本案又ハ法式ニ付キ其手續ヲ取消サントスル憑據ハ其箇條書ヲ公ケニ為スヨリ遑クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出ス可シ

裁判所ニテ其取消訴ノ如ク允許レタル時ハ其効ヲ夫ハサル最終ノ手續ヨリ以後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ム可シ但シ以後ノ手續ヲ為シ改ムル期限ハ取消ヲ言渡シタル確定ノ裁判ノ日ヨリ之ヲ算フ可シ

若シ又裁判所ニテ同上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ之ヲ却還スル言渡書ヲ以テ第六百九十五條ニ循ヒ糶賣ノ箇條書ヲ讀上ケ且公ケニ為スノ書面ヲ與フ可シ

第七百二十九條

不動産糶賣ノ箇條書ヲ公ケ

ニ為シタル後ノ訴訟ノ手續ヲ取消サントスル憑據ハ糶賣ヨリ遅クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出ス可シ

糶賣ヲ為ス為メ預定シタル日ニ至リ糶賣ニ取掛ル前ニ同上ノ取消ノ憑據ヲ裁判ス可シ

裁判所ニテ其取消ノ訴ノ如ク允許シタル時ハ糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタルノ言渡ヨリ後ノ訴訟ノ手續ヲ取消ト為シ其言渡ヨリ後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ム可キヲ言渡シ且糶賣ノ期日ヲ改ム可シ

若シ又裁判所ニテ全上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ直ニ糶賣ニ取掛ル可シ

第七百三十條 左ノ裁判言渡ハ控訴スルヲ

許サス

第一 一人ノ債主ノ為ス差押ノ手續ニ付

キ他ノ債主之ニ代ラントスルノ訴ヲ裁

判シタル言渡

但シ是迄差押ノ手續ヲ為シタル債主密

カニ負債者ト謀リテ不正ノ處置ヲ為シ

又ハ詭偽ヲ行フタルニ因リ他ノ債主之

ニ代ラント訴ハタル時ハ格別ナリトス
 第二 不動産差押ニ付キ附帯ノ訴ヲ別段
 裁判スルコトナク唯糶賣ノ箇條書ヲ公ケ
 ニ為スノ書面ヲ與フル言渡又ハ再度ノ
 糶賣ノ前後ヲ問ハス糶賣ノ言渡

第三 糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタル後
 ノ手續ヲ取消セントスル訴ヲ裁判シタ
 ル言渡

第七百三十一條 總テ前條ニ記シタル以外ノ
 言渡ヲ控訴ス可キ期限ハ代書師其言渡書ノ

送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス又代書師ナ
 キ時ハ本人ノ真ノ住所又ハ別段擇ミタル住
 所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内
 トス若シ此定期限ヲ過クル時ハ其控訴ノ効
 ナカル可シ

第七百二十五條ニ記シタル訴ノ裁判言渡ヲ
 控訴スル時ハ同上ニ循ヒ五「シリヤメ」トル
 毎一控訴ノ定期ニ一日ヲ増ス可シ
 控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ニテ之ヲ十五日
 内ニ裁判ス可シ○控訴ノ時一方ノ者抗傳シ

テ更ニ受ケタル裁判言渡ハ故障ヲ述ルルヲ
許サス

第七百三十二條 控訴ヲ為ス書ヲ之ヲ相手方
代書師ノ住所ニ送達シ若シ代書師ナキ時ハ
相手方本人ノ真ノ住所又ハ其別段擇ミタル
住所ニ送達シ且同時ニ初告裁判所ノ書記官
ニ送達シテ書記官之ニ檢印ス可シ
負債者ハ控訴院ノ吟味ノ席ニテ既ニ初告裁
判所ニ申述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述
可カラス

控訴ヲ為ス書ニハ其控訴ヲ為スノ赴意ヲ記
ス可シ

此條ニ記スル法式ヲ行ハサル時ハ控訴ノ効
ナカル可シ

第七百三十三條 若シ糶ニテ不動産ヲ買入レ
タル者糶賣ノ箇條ノ如ク執行ハサル時ハ其
買主ノ引受第四百二十條見合二十ヲ以テ其不動産ヲ更
ニ糶賣ト為ス可シ

第七百三十四條 若シ糶賣ノ言渡書ヲ渡ス以
前ニ買入人ノ引受ヲ以テ再ヒ糶賣ヲ為ス可

キハ訴ヲ為ス者アル時ハ其訴ヲ為ス者其買
 入人糶賣ノ箇條ヲ行ハサル旨ノ受合書ヲ裁
 判所ノ書記官ヨリ受取ル可シ
 若シ其買入人裁判所ノ書記官ヨリ同上ノ訴
 人ニ其受合書ヲ渡サントスルトニ付キ故障
 ヲ述ル時ハ一方ノ者ノ求メニ從ヒ裁判所ノ
 上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可
 シ
 第七百三十五條 此書記官ノ受合書ノミヲ以
 テ證ト為シ別ニ其他ノ手續又ハ裁判ヲ要ス

ルヲナク以前ニ等ニキ諸件ヲ記シタル貼附
 ヲ為シ且新聞紙ニ記入ヲ為ス可シ又糶賣ノ
 言渡書ヲ渡レタル後ニ買入人ノ引受ヲ以テ
 更ニ糶賣ヲ為ス可キノ訴ヲ為ス者アル時ハ
 債主ノ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面ト
 要決ノ書トヲ其買入人ニ送達シタルヨリ三
 日ノ後ニ同上ノ貼附及ヒ記入ヲ為ス可シ
 又其貼附書及ヒ新聞紙ノ記入ニハ是迄ノ買
 入人ノ姓名居所其買入ヲ為サントシタルニ
 付テノ附ケ直段サラニ糶賣ノ手續ヲ為ス者

ノ附ケ直段以前ノ箇條書ニ循ヒ更ニ糶賣ヲ
 為ス可キ定日等ノ諸件ヲ附記ス可シ
 更ニ貼附及ヒ新聞紙ノ記入ヲ為ス日ト更ニ
 糶賣ヲ為ス日トノ間ニ少クトモ十五日多ク
 トモ三十日ノ日數ヲ隔ツ可シ
 第七百三十六條 更ニ糶賣ヲ為スヨリ遅クト
 モ十五日前ニ是迄ノ買入人ノ代書師ニ更ニ
 糶賣ヲ為ス日刻ヲ報告シ且負債者ノ代書師
 ノ住所ニ同様ノ報告ヲ為シ若シ又負債者ニ
 代書師ナキ時ハ其本人ノ住所ニ其報告ヲ為

ス可シ

第七百三十七條 更ニ為ス所ノ糶賣ハ第七百
 三條ニ循ヒ之ヲ延ハスヲ得可シ但シ之ヲ
 延ハスニハ其糶賣ノ手續ヲ為ス者ヨリ之ヲ
 訴ルヲ必要トス
 第七百三十八條 若シ是迄ノ買入人糶賣ノ箇
 條ノ如ク執行ノ可キノ證ト更ニ為ス所ノ糶
 賣ノ費用トシテ裁判所上席人ノ定メタル金
 高ヲ官署ニ預ケタルノ證トヲ立ル時ハ更ニ
 為ス所ノ糶賣ニ取掛ル可カラス

第七百三十九條 第七百三十四條第七百三十
 五條第七百三十六條第七百三十七條ニ記列
 シタル法式及ヒ定期必ス之ニ循フ可シ若シ
 之ニ背ク時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナ
 カル可シ
 更ニ為ス所ノ糶賣ノ手續ヲ取消サントスル
 憑據ハ第七百二十九條ニ記シタル如ク之ヲ
 訴出シ且之ヲ裁判ス可シ
 更ニ糶賣ノ手續ヲ為ス時一方ノ者ノ抗傳シ
 テ受ケタル裁判言渡ハ故障ヲ述フ可カラス

又其手續ヲ取消サントスル憑據ノ裁判言渡
 ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記
 シタル法式ニ循ヒ其定期内ニ控訴ヲ為スヲ
 得可シト雖モ其他ノ裁判言渡ハ控訴ヲ為ス
 可カラス
 更ニ為ス所ノ糶賣ハ第七百五條第七百六條
 第七百七條第七百十一條ノ規則ヲ通シ用ユ
 可シ

第七百四十條 是迄ノ買入人ハ其附ケ直段ト
 更ニ為ス所ノ糶賣ニテ得ル所ノ代金トノ差

ヲ必ス償フ可ク若シ之ヲ償ハサル時ハ禁錮
ヲ受ク可シ但シ其附ケ直段ヨリ更ニ多分ノ
代金ヲ得タル時ト雖モ是迄ノ買入人ハ其餘
分ヲ已ノ所得ト為スヲ得ス其餘分ハ之ヲ
債主ニ属ス可ク若シ債主皆既ニ其償ヲ得タ
ル時ハ之ヲ負債者ニ属ス可シ

第七百四十一條 若シ附帶ノ訴ニ因リ又ハ其
他相當ノ事故アルニ因リ更ニ為ス所ノ糶賣
ヲ延ハシタル時ハ第七百四條ニ期シタル定
期內ニ更ニ貼附ヲ為シ且新聞紙ニ記入ス可

シ

第七百四十二條 若シ負債者其契約ノ如ク執
行ハサルニ於テハ債主不動産差押ノ為メ別
段定リタル法式ヲ行ハスニテ其負債者ノ不
動産ヲ賣拂フ可キ旨ヲ其債主ト負債者ト嘗
テ約定ヲ為シ置キタルト雖モ此ノ如キ約定
ハ其効ナカル可シ

第七百四十三條 自己ノ財産ヲ隨意ニ取扱フ
ヲ得可キ丁年者ノ不動産ヲ相對テ以テ賣
拂フ時ハ之ヲ裁判所ニテ糶賣ト為ス可カラ

ス若シ裁判所ニテ之ヲ糶賣ト為スト雖モ其効ナカル可シ
 又既ニ不動産ヲ差押ヘ且差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其差押ニ管係アル者皆自己ノ財産ヲ隨意ニ為スヲ得可キ丁年者ナルニ於テハ幼者ノ不動産賣拂ニ付キ第九百五十八條第九百五十九條第九百六十條第九百六十一條第九百六十二條第九百六十四條第九百六十五條ニ記シタル法式ナリ証書人ノ面前又ハ裁判所ニテ其差押ヘタル不

動産ヲ糶賣ト為サント訴フルヲ得可シ
 其差押ニ管係アル者トハ第六百九十二條ニ記シタル如ク債主ニ招書ヲ送達スル前ハ差押ノ手續ヲ為シタル債主ト負債者トヲ指レ言ヒ其招書ヲ送達シタル後ハ差押ノ手續ヲ為シタル債主及ヒ負債者ト自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等トヲ指シ言フ
 相連接シタル不動産ノ一部分ノミヲ差押ヘタル時ハ負債者其餘ノ部分モ亦共ニ糶賣ト

為ス可キヲヲ訴フルヲ得可シ

第七百四十四條

親族會議ノ許諾ヲ別段得タル後見人又ハ幼者

者ノ後見人ヲ受ケン

管財人ノ補佐ヲ受ケタル既ニ後見ヲ免レ

シ幼者

其他法律上ニ又人ノ財産ヲ支配ス可キ者

此等ノ者ハ前條第二項ニ記シタル訴ヲ為シ

並ニ其訴ニ參スルヲ得可シ

第七百四十五條 第七百四十三條ノ第二項及

ヒ第七百四十四條ニ記シタル訴ヲ為サント

スルニハ差押ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ願

書ヲ差出ス可シ其願書ハ訴ヲ為ス數人ノ代

書師皆之ニ姓名ヲ手署ス可シ

其願書ニハ債主ノ附ケ直段ヲ附記ス可シ但

シ其附ケ直段ハ評價ノ用ヲ為ス可シ

第七百四十六條 同上ノ訴ノ裁判ハ掛リ裁判

役ノ申立ト檢察官ノ求ムル所トヲ聽キタル

上ニテ之ヲ為ス可シ

裁判所ニテ同上ノ訴ノ如ク允許スル時ハ其

糶賣ノ期日ヲ定メ証書人ノ面前又ハ其裁判所ノ裁判役ノ面前又ハ他ノ裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ糶賣ヲ為ス可キヲ言渡ス可シ其裁判言渡書ハ之ヲ負債者ニ送達スルニ及ハス又其言渡ニ付キ故障ヲ述ヘ又ハ控訴ヲ為スヲ許サス

第七百四十七條 若シ同上ノ裁判言渡ノ後ニ之ニ管係アル本人ノ死去シ又ハ家資分散ヲ為シタルニ因リ又ハ其他ノ事ニ因リ其身分ノ變スルヲアル時又ハ其管係アル本人ノ幼

者又ハ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル遺物相續人又ハ其他自己ノ財産ヲ隨意ニ為スヲ能ハサル者タル時ト雖モ其裁判言渡ノ効ヲ失フヲナカル可シ

第七百四十八條 同上ノ裁判言渡ヨリ八日内ニ嘗テ差押ノ手續ヲ為シタル債主ノ求メニ從ヒ差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シ置キタル端ニ其言渡ヲ簡略ニ附記ス可シ同上ノ言渡ノ場合ニ於テ第六百八十二條ニ記シタル如ク差押ヘタル不動産ノ利益ハ猶

之ヲ差押へ置ク可シ但シ此規則ヲ以テ嘗テ
 差押ノ手續ヲ為シタル債主第六百八十五條
 ニ記スル所ニ循ヒ土地又ハ家屋ノ借賃ヲ差
 押フルノ權ヲ害ス可カラス
 又同上ノ場合ニ於テハ第六百八十六條ニ記
 シタル賣拂ノ禁制ノ如ク執行フ可シ

○第十四章 負債者ノ不動産ヲ差押へ
 之ヲ糶賣ト為シテ得タル代金ヲ債
 主數人ニ分派スル順序

第七百四十九條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム別段ニ事務ノ多端ナル裁判
 所ニ於テハ債主數人ノ拂方ヲ得ル順序ヲ定
 ムル為メ皇帝勅命ヲ以テ別ニ任ヲ受ケタル
 裁判役一人又ハ數人ヲ定メ置ク可レ○其掛
 リ裁判役ハ裁判役ノ補佐中ヨリ之ヲ選ビ少
 クトモ一年間多クモ三年間之ヲ任シ置ク可
 シ
 其掛リノ裁判役ノ不在ナル時又ハ事故アリ
 テ差支アル時ハ裁判所ノ上席人之ニ代ル可
 キ他ノ裁判役ヲ任シ其旨ヲ別段書記局ニ設

ケタル簿冊ニ記入ス可シ○皇帝ノ勅命書ヲ以テ任セラレタル掛リ裁判役又ハ上席人ヨリ任セラレタル掛リ裁判役ハ其裁判所又ハ控訴院ノ上席人又ハ檢事長ノ要メニ從ヒ其定ム可キ任ヲ受ケシ債主ノ順序ノ目錄書ヲ差出ス可レ

第七百五十條 一千八百五十八年五月二十一日

左ノ如ク改ム糶ニテ不動産ヲ買入タル者ハ裁判所ニテ糶賣ノ言渡書ヲ渡シタル日ヨリ四十五日内ニ其言渡書ヲ役所ノ簿冊ニ登記

セシメ又其言渡書ニ服セスシテ控訴ヲ為ス者アル時ハ其糶賣ノ言渡書ヲ控訴院ニテ確定シタル日ヨリ四十五日内ニ其言渡書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシム可シ若シ其買主定期内ニ此手續ヲ為ササル時ハ其者ノ引受ケテ以テ其不動産ヲ再ヒ糶賣ト為ス可シ其登記ヨリ後八日内ニ從前不動産差押ノ手續ヲ為シタル債主嘗テ債主數人其書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル其目錄ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ裁判所ニテ債主數人

ノ償ヲ得可キ順序ノ調書ニ取掛ル可キ旨ヲ
 求メ且時宜ニ因リ別段掛リ裁判役ヲ任ス可
 キ旨ヲモ亦求ム可シ但シ従前不動産差押ノ
 手續ヲ為シタル債主同上ノ八日ノ期限内ニ
 此等ノ諸事ヲ求メサル時ハ其他ノ債主又ハ
 負債者又ハ糶ニテ不動産ヲ買入レン者ヨリ
 此等ノ諸事ヲ求ムルコトヲ得可シ
 時宜ニ因リ掛リ裁判役ヲ任ス可キノ求メテ
 為ス者ハ裁判所ノ書記局ニ別段設ケ置キタ
 ル簿冊ニ其求ノ旨ヲ記入セシ上ニテ裁判所

ノ上席人掛リ裁判役ヲ任レタル旨其次ニ附
 記ス可シ

第七百五十一條 (千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム)前條ニ記シタル求メニ因リ
 別段任セラレタル掛リ裁判役ハ其任ヲ受ケ
 タルヨリ八日内ニ又元來任ヲ受ケタル掛リ
 裁判役ハ其求メテ受ケタルヨリ三日内ニ嘗
 テ自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シ
 タル債主等ヲ呼聚メ糶賣ニテ得タル代金ヲ
 協議ノ上分派ノ順序ヲ定メシム可シ

其債主等ヲ呼聚ムルニハ裁判所ノ書記官裁
 判役ノ書翰ヲ郵便ニ托シ其債主等ノ佛蘭西
 國內ニ在ル真ノ住所ト其別段擇ミタル住所
 トニ送ル可シ但シ其費用ハ前條ノ求メヲ為
 ス者之ヲ出シ置ク可シ
 差押ヲ受ケタル負債者及ヒ糶ニテ不動産ヲ
 買入レタル者モ亦書翰ヲ以テ其呼出ヲ受ク
 可シ
 呼出シノ書翰ノ達セシ日ト集會ノ日トノ間
 ニ少クトモ十日ノ期限ヲ隔ツ可シ

債主等協議シテ代金分配ノ順序ヲ定ムル時
 ハ裁判役其旨ヲ調書ニ記シテ其分配ヲ得可
 キ債主等ニ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書
 面ヲ渡スコトヲ言渡シ又其分配ヲ得可カラサ
 ル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キコ
 トヲ言渡ス可シ
 其書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルニハ書記官
 ヨリ渡シタル裁判役ノ言渡書ノ拔書ヲ書入
 質役所ニ出ス可シ
 集會ノ席ニ出テサル債主ハ二十五^ラランク

ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第七百五十二條 〔千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム〕債主等一月内ニ協議セル時ハ裁判役其旨ノ調書ニ記シ且出席ヲ為サ、
 債主ニ罰金ヲ言渡ス可シ又裁判役ハ債主等ノ償ヲ得可キ順序ヲ定ムルヲ令ヨリ為シ始ムル可キ旨ヲ言渡シ債主等ニ各其證書類ヲ差出サシムルノ呼出ヲ為スタメ別段使吏一人又ハ數人ヲ任シ其旨ヲ調書ニ記ス可シ但シ調書ノ中此事ヲ記シタル部分ハ別

段之ヲ寫シ取り又ハ債主等ニ送達スルニ及ハス

第七百五十三條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム〕債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定ムルヲ為シ始メタル時ヨリ八日内ニ債主等ノ別段擇ミタル住所又債主代書師ヲ任シタル時ハ其代書師ノ住所ニ各其證書類ヲ差出入可キ呼出狀ヲ送達シ且ツ差押ヲ受ケタル不動産ヲ嘗テ賣拂ヒ尚其代金ヲ受取ラサル賣主アリテ其者別段所ヲ擇ムトナク又

ハ代書師ヲ任シタルナキ時ハ佛蘭西國內
 ニ在ル其真ノ住所ニ同上ノ呼出狀ヲ送達ス
 可シ
 其呼出狀ニハ若シ債主四十日內ニ其證書ヲ
 差出サ、ル時ハ其償ヲ得可キノ權ヲ失フ可
 キ旨ヲ附記ス可シ
 又糶ニテ不動産ヲ買入レタル者ノ代書師ニ
 債主等ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ノ始マ
 リシ旨ヲ告知ス可シ○若シ糶ニテ買入レタ
 ル者數人アル時ハ其數人ノ名代人タル代書

師一人ヲ定メ其代書師ニ同上ノ告知ヲ為ス
 可シ
 其呼出ノ手續ヲ為ス者債主等數人ニ其呼出
 狀ヲ送達シタル日ヨリ八日內ニ其呼出狀ノ
 正本ヲ裁判役ニ渡シ裁判役其呼出狀ヲ調書
 ニ附記ス可シ
 第七百五十四條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)前條ノ呼出ヲ受ケタルヨリ
 四十日內ニ債主等各自己ノ證書ヲ差出シ且
 其證書ヲ出シタル旨ヲ記シタル書面ニ其代

書師ノ姓名ヲ自署セシメ且之ニ其債ノ償ヲ
 得可キ相當ノ順序ヲ得ント欲スル願旨ヲ附
 記シテ亦之ヲ差出ス可レ○裁判役ハ其證書
 ヲ受取リタル一ヲ調書ニ記入ス可レ
 第七百五十五條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム) 四十日ノ期限内ニ證書ヲ差
 出サ、ル債主ハ當然其償ヲ得可キ權ヲ失フ
 可レ○裁判役ハ即時ニ其公務ヲ以テ同上ノ
 債主其權ヲ失ヒタル旨ヲ調書ニ記シ既ニ差
 出シタル證書ニ從ヒ債主ノ償ヲ得可キ順序

ヲ定ムル目錄ヲ記ス可レ○此ノ目錄ハ前ニ
 記シタル四十日ノ期限ノ終リシ時ヨリ遅ク
 トモ二十日内ニ之ヲ記ス可レ
 其目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ十日内ニ債主中
 順序ヲ定ムル手續ヲ為ス者其代書師ヲシテ
 證書ヲ出シタル債主ノ代書師及ヒ負債者ノ
 代書師ニ書面ヲ送ラシメテ其目錄ヲ記シ終
 リタル旨ヲ此等ノ者ニ告知シ且三十日内ニ
 其目錄ヲ檢視レ別段ノ道理アルニ於テハ故
 障ヲ述ヘ其故障ヲ調書ニ附記ス可キ旨ヲ告

知ス可シ

第七百五十六條

〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム〕證書ヲ出シタル債主及ヒ負債者前條ニ記スル期限内ニ目錄ヲ檢視シテ其故障ヲ述ハサル時ハ別ニ呼出又ハ裁判言渡ヲ受ケスレテ其故障ヲ述フル權ヲ失フ可シ

第七百五十七條

〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム〕共ニ賣拂ヲタル數箇ノ不動産ヲ各自別々ニ評價スルノ必要ナル時ハ掛

リ裁判役訴訟人ノ願ニ因リ又ハ公務ヲ以テ評價人一人又ハ三人ヲ任スルヲ言渡シ且其擔ヲ為ス可キ日ト其說ヲ述フ可キ期限トヲ定メ此等ノ諸事ヲ調書ニ記入ス可シ○其言渡ハ債主中順序ヲ定ムル手續ヲ為フ者ヨリ評價人ニ送達シ又評價人ノ擔ヲ為レタル旨ヲ調書ニ記入シ評價人ノ說ヲ記シタル書面ヲ其調書ニ添ヘ置ク可シ但シ其評價人ノ說ヲ記シタル書面ハ之ヲ寫シ取リ債主等ニ送達スルニ及ハス

前ニ記シタル如ク共ニ賣拂ヲタル數箇ノ不
 動産ノ價ヲ各自別々ニ評價スルノ必要ナ
 ル時ハ掛リ裁判役假リニ債主ノ順序ヲ定ム
 ル目錄ヲ記スル時其評價ヲ言渡ス可シ
 第七百五十八條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)債主中ニテ裁判役ノ記シタ
 ル債主順序ノ目錄ニ付キ故障ヲ述フル者ハ
 其申述ノ旨趣ヲ調書ニ記シ且其憑據タル證
 書類ヲ出シ可シ其時掛リ裁判役ハ別段定メ
 タル期日ニ裁判所吟味ノ席ニ出テ其裁判ヲ

受ク可キコトヲ言度レ且其吟味ノ席ニテ訴訟
 ノ手續ヲ為ス可キ代書師ヲ別段任ス可シ
 此場合ニ於テ掛リ裁判役ハ争ノ生シタル債
 ヲリ先ニ列次スル債ニ付テハ其債主ノ順序
 ヲ確定レテ羅賣代金中ヨリ償ヲ得可キ書面
 ヲ渡レ又争ノ生シタル債ヨリ後ニ列次スル
 債ニ付テニ其債主ノ順序ヲ確定スルコトヲ得
 可シ但レ此場合ニ於テハ争ヲ受ケタル債主
 ノ權利ヲ保護スル為メ其役ニ列次スル債ノ
 中ヨリ相當ノ高ヲ除キ置ク可シ

第七百五十九條 〔千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ〕掛リ裁判役ノ定メタル債主ノ償ヲ得可キ順序ノ目錄ニ付キ故障ヲ述ル者ナキ時ハ債主等其目錄ヲ檢視シテ其故障ヲ述フル為メ定メタル定期ノ終リヨリ十五日内ニ裁判役其債主ノ順序ノ目錄ヲ確定レ且償ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルノ費用及ヒ債主ノ順序ヲ定ムル訴ヲ為スノ費用ノ高ヲ定ム可シ但シ其費用ハ他ノ債ヨリ最モ先キニ賣拂ノ代金中

ヨリ之ヲ償ハシムルヲ得可シ○又其裁判役ハ償ノ償ヲ得ルヲ能フ可キ債主等ノ費用ノ高ヲ定メ且此等ノ債主ニ賣拂代金中ヨリ償ヲ得可キノ書面ヲ渡シ又償ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キヲ言渡ス可シ○又糶ニテ買入レタル者ハ各債主等ニ渡ス可キ金高中ヨリ其債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スル費用ヲ差引ク可シ

第七百六十條 〔千八百五十八年五月二十一日

左ノ如ク改ム掛リ裁判役ノ定メタル債主ノ償ヲ得可キ順序ノ目録ニ付故障ヲ述フル者ノル時ハ其故障ヲ受ケタル債主ヨリ後ニ列次シタル債主等其故障ヲ述フ可キ三十日ノ定期ノ後八日内ニ互ニ協議シテ別段其代書師一人ヲ撰ム可シ若シ互ニ協議セサル時ハ償ヲ得可キ債主中ニテ最後ノ債主ノ代書師ヲ其債主數人ノ名代人ト定ム可シ○是迄債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ為シタル代書師ハ唯其手續ヲ為シタルノミニテ其故障ノ訴ニ

管ス可キノ特權ナントス

第七百六十一條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)同上ノ故障ヲ述フル者アル時ハ別段任ヲ受ケタル代書師ヨリ第七百五十八條ニ記シタル裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ求ムル招書ヲ故障ヲ受ケタル債主ニ言送ル可シ○其故障ヲ述フル訴訟ハ故障ヲ受ケタル債主其權ノ憑據ヲ記シタル願書ヲ出スノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ要スルヲナク急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ又其裁

判言渡書ニハ其訴訟ノ費用ノ高ヲ定ム可シ
 ○若シ故障ヲ述フル債主及ヒ故障ヲ受クル
 債主更ニ證書ヲ出サント欲スル時ハ同上ノ
 裁判所吟味ノ席ニ出ツルヨリ遅クトモ三日
 前ニ其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シ且其
 旨ヲ調書ニ附記ス可シ○裁判所ニテハ債主
 ノ新タニ差出シタル證書ニ據テ其訴訟ヲ裁
 判ス可シ然レ別段至重ニシテ確証アル原由
 アル時ハ裁判所ヨリ債主等ニ更ニ他ノ證書
 ヲ出ス可キ猶豫ノ期限ヲ許ルスヲ得可シ

但シ其猶豫ノ期限ヲ許ルスノ言渡ニハ裁判
 所吟味ノ期日ヲ定ム可ク且其言渡ハ之ヲ寫
 取り送達スルニ及ハス○其猶豫ヲ許ルシ又
 ハ許ルサハル言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得ス
 第七百六十二條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)債主ノ償ヲ得可キ順序ニ付
 テノ訴訟ノ本案及ヒ附帶ノ事ニ管シタル裁
 判言渡ハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説ト
 ヲ聴キタル上ニテ之ヲ為ス可シ
 債主ノ償ヲ得可キ順序ニ付テノ訴訟ノ本案

ニ管シタル裁判言渡書ハ其日ヨリ三十日内
 ニ一方ノ代書師ニ之ヲ送達ス可ク且其言渡
 ハ故障ヲ述フルヲ得ス○其言渡書ヲ控訴
 ス可キ定期ハ之ヲ代書師ニ送達シタル日ヨ
 リ算フ可レ○其控訴ハ一方ノ代書師其言渡
 書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内ニ之ヲ為ス
 可レ但レ是迄訴訟ニ管シタル初告裁判所ト
 控訴ノ原告人ノ真ノ住所トノ間五^リヤメ
 トト^ル毎ニ猶豫ノ期限日ヲ増ス可レ○控訴
 ハ書面ハ其被告人ノ代書師ノ住所ニ送達シ

又負債者被告人ニシテ其代書師ナキ時ハ其
 本人ノ真ノ住所ニ送達ス可レ○其控訴ノ書
 面ニハ其被告人ヲ呼出ストト原告人ノ控訴
 ヲ為ス旨赴トヲ記ス可レ若シ之ヲ記セサル
 時ハ其書面ノ効ナカル可レ
 故障ヲ述ヘレ債主ノ得可キ金高及ヒ分配ス
 可キ金高ノ如何ナルヲ問ハス争ヒアル金高
 千五百^リヲ^ランク以上ナル時ニ非レバ同上ノ
 控訴ヲ許サス

第七百六十三條

一千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム初告裁判所ノ言渡ヲ控訴シタル債主アル時其争アル債ヨリ更ニ後ニ列次ス可キ債主ノ代書師ヲ控訴院ニ呼出ス可キノ道理アルニ於テハ之ヲ呼出ス可シ此場合ニ於テハ控訴院ニ呼出ヲ受ケタル同上ノ代書師ヨリ其憑據ヲ記シタル願書ヲ出スノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ為スニハ及ハスレテ第七百六十一條ニ記レタル如ク控訴院ニテ其訴ヲ吟味ス可シ

第七百六十四條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム控訴院ニテ債主ノ順序ニ付テノ控訴ヲ裁判スルニハ檢察官ノ説ヲ聴ク可シ○其裁判言渡書ニハ裁判費用ノ高ヲ定ム可ク又其言渡書ハ一方ノ者之ヲ得タル日ヨリ十五日内ニ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達ス可ク相手方ノ者之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス○相手方ノ代書師覆審院ニ其言渡ノ取消ヲ訴出ス可キ期日ハ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ算フ可シ

第七百六十五條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム債主ノ順序ノ争ニ付キ初告
 裁判所ノ言渡ヲ控訴シタルトナキ時ハ其控
 訴ヲ為ス可キ期限ノ終リシヨリ八日内又其
 控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ノ言渡書ヲ一方
 ノ者ヨリ相手方ノ代書師ニ送達シタル日ヨ
 リ八日内ニ掛リ裁判役第七百九條ニ循ヒ嘗
 テ順序ノ争アリシ債並ニ其債ヨリ後ニ列次
 ス可キ債ノ順序ヲ確定ス可シ
 此時ヨリ後負債者ハ償ヲ得ルヲ能フ可キ順
 序ノ債ノ息銀ヲ拂フニ及ハス

第七百六十六條 (千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム) 債主ノ順序ニ付テノ訴訟ノ
 費用ハ糶賣ニ因リ得タル代金中ヨリ之ヲ差
 引ク可カラス

然レ債主中ノ一人其相當ノ證書ヲ差出シタ
 ルト雖モ掛リ裁判役公務ヲ以テ其債主ノ償
 ヲ得可キ權利ヲ却還シタル時其債主後ニ裁
 判吟味ノ席ニ出テ己ノ權利ヲ申述ヘ外ニ其
 權利ニ付キ争ヲ為ス者ナク裁判所ニテ其權
 利ヲ允許シタルニ於テハ其訴訟ノ費用ヲ己

ノ償ヲ得可キ債ト同一ノ順序ニ為シテ糶賣
 代金中ヨリ取戻スルヲ得可シ
 順序ノ争アル債主ヨリ後ニ列次ス可キ債主
 數人ノ代書師第七百六
十條見合ハ其債主數人ヨリ前
 ニ列次スル債主等ニ糶賣代金ヲ分配シタル
 上猶餘リタル金高中ヨリ自己ノ為シタル費
 用ノ償ヲ得可シ○同上ノ代書師ニ其費用ノ
 償ヲ許ルス裁判言渡書ニハ債ノ償ヲ得ルヲ
 能ハサル債主又ハ負債者其代書師ノ權ニ代
 テ負訴訟ノ債主ヨリ代書師ノ費用高ニ當ル

可キ金高ノ償ヲ得ント訴フルヲ允許スル
 言渡ノ旨ヲ附記ス可シ○其裁判言渡ノ如ク
 執行ノ可キヲ記シタル書面裁判言渡書ニ
記入シタル者
 ニハ前文ノ旨ヲ記シ且其言渡ノ為メ利益ヲ
 得可キ債主又ハ負債者ノ姓名ヲ記ス可シ
 債主ノ順序ニ付テノ訴訟ノ時争ヲ為ス者又
 ハ争ヲ受タル者其證書ヲ出スルヲ怠ル時ハ
 縱令克訴訟トナルト雖モ其訴訟ノ費用ヲ償
 フ可キノ言渡ヲ受ク可シ
 債主ノ順序ニ付テノ訴訟ニ付キ裁判ノ費用

ヲ相手方ニ償フ可キノ言渡ヲ受ケタル債主
 糶賣代金中ヨリ已ノ償ノ償ヲ得可キ順序ナ
 ル時ハ其替ノ得可キ金高中ヨリ相手方ニ償
 フ可キ裁判費用ノ高ヲ差引ク可シ但シ此事
 ハ債主ノ順序ヲ定ムルニ付テノ別段ノ規則
 ナリトス

第七百六十七條 〔千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム〕掛リ裁判役債主等ノ順序ヲ
 確定シタル言渡ヨリ三日内ニ其手續ヲ為シ
 タル者ノ代書師ヨリ他ノ債主又ハ糶ニテ買

入レタル者又ハ負債者ノ代書師ニ書面ヲ送
 リテ其言渡ノ旨ヲ報告ス可シ
 債主中ノ一人又ハ買入人又ハ負債者同上ノ
 言渡ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ必ス其
 言渡ヨリ八日内ニ之ヲ述ヘ且其時ヨリ更ニ
 八日内ニ裁判所休業ノ時ト雖モ其代書師ヨ
 リ他ノ數人ノ代書師ニ招書ヲ送ラセメ裁判
 所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ但シ負
 債者代書師ヲ任セサル時ハ定例ノ呼出狀ヲ
 其住所ニ送達ス可シ○此故障ヲ述フル詐ヲ

ヲ吟味シ及ヒ裁判スル方法並ニ其裁判言渡
ノ控訴ヲ吟味シ及ヒ裁判スル方法ハ第七百
六十一條第七百六十二條第七百六十四條ニ
記スル所ニ循テ可シ

第七百六十八條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム〕債ノ償ヲ得ルヲ能ハサル債
主又ハ負債者ハ債主ノ順序ニ付キ争アル時
間ノ息銀ニ付キ負訴訟ノ債主ニ對シ償ヲ得
ントスル訴ヲ為スヲ得可シ

第七百六十九條 〔千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム〕掛リ裁判役ノ為レタル債主
ノ順序ヲ定ムル言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ
得可カラサル期限ニ至リレ日ヨリ十日内
ニ裁判所ノ書記官ハ是迄債主ノ順序ヲ定ム
ル手續ヲ為レタル債主ノ代書師ニ其裁判言
渡書ノ寫ヲ渡シ其代書師之ヲ書入質役所ニ
出ス可シ○書入質ノ管轄者ハ掛リ裁判役ノ
言渡書ヲ檢視レタル上債ノ償ヲ得ルヲ能ハ
サル債主等ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可
シ

第七百七十條 (千八百五十八年五月二十一日)
 左ノ如ク改ム前條ノ定期内ニ裁判所ノ書記
 官ハ債ノ償ヲ得可キ債主等各人ニ買入人又
 ハ金高預リ役所ヨリ其債ノ償ヲ得可キ書面
 ヲ渡ス可シ
 債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ為シタル代書師
 ノ其費用ノ償ヲ得可キ書面ハ債ノ償ヲ得ル
 所ノ簿冊ヨリ塗抹シタルノ受合書ヲ差出サ
 レハ之ヲ渡ス可カラス○此受合書ハ債主

ノ順序ヲ定ムル調書ニ添ヘ置ク可シ
 第七百七十一條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)債ノ償ヲ得タル債主等ハ各
 其得タル金高ノ受取書ヲ買入人ニ與ヘテ其
 書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルヲ承諾ス可
 シ○書入質ノ管轄者ハ償ヲ得タル債主其償
 ヲ得可キ為メ嘗テ裁判所ノ書記官ヨリ渡シ
 タル書面ト其債主ノ金高請取書トヲ檢視シ
 タル上其書入質ノ權ノ記入ヲ公務ヲ以テ次
 第ニ塗抹ス可シ

又其管轄者嘗テ自己ノ公務ヲ以テ為シタル書入質ノ權ノ記入ハ民法第百八條見合糶ニテ買入レタル者ヨリ債主又ハ負債者ニ其代金ヲ盡ク拂ヒタルノ證ヲ立テタル上ニテ之ヲ塗抹ス可シ

第七百七十二條 (千八百五十八年五月二十一

日左ク如ク改ム)負債者ノ不動産ヲ差押ヘテ糶賣ト為スヨリ更ニ他ノ方法ヲ以テ其不動産ヲ賣拂フ時ハ債主中ノ一人又ハ其買入人ヨリ債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定メント訴フ

ルヲ得可シ

又其訴ハ賣主ヨリモ之ヲ為シ得可シト雖モ買入人ヲシテ其代金ヲ拂ハシムルニ付テノ猶豫ノ期限内ニ之ヲ為ス可カラズ此場合ニ於テハ書入質ノ權ヲ滌掃ス可キ為メ定メタル法式ヲ行ハスシテ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴ヲ為ス可カラス其訴ヲ為ス法式ハ此章中ニ記列スル所ニ等シカル可シ

法律上ノ書入質ノ權ヲ有スル債主民法第二

千百九十五條ニ定メタル定期内ニ其書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメサル時ハ其定期ヨリ三月内ニ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴アルニ非サレハ他ノ債主ヨリ先キニ其償ヲ得可キノ權ヲ行フコトヲ得ス但シ法律上ノ書入質ノ權ヲ有スル債主ハ第七百十七條ノ最終ノ一項ニ記シタル規則ニ循フ可シ

第七百七十三條 〔千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム〕負債者ノ不動産ヲ賣拂フタル方法ノ如何ナルヲ問ハズ自己ノ書入質ノ

權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主ノ數四人ヨリ少ナキ時ハ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴ヲ為ス可カラス

債主ノ順序ヲ定ムル訴ノ手續ヲ為ス者ハ第七百五十條及ヒ第七百七十二條ニ記シタル定期ノ後ニ至リ第七百五十一條ニ記シタル法式ト定期トニ從ヒ債主等ヲシテ互ニ協議シテ其順序ヲ定ムルノ手續ヲ為サシム可ト為メ別段掛リノ裁判役ニ願書ヲ出シ若シ又別段掛リ裁判役アラサル時ハ裁判所ノ上席

人ニ其願書ヲ出ス可シ
 債主等相協議シテ其順序ヲ定メサル時ハ裁
 判所ニテ訴ノ手續ヲ為ス者ノ願ニ因リ債主
 等及ヒ其他ノ者ニ呼出狀ヲ送り急速吟味ノ
 法式ヲ以テ其債主ノ順序ヲ定ム可シ但シ各
 債主及ヒ其他呼出ヲ受クル者ノ憑據ヲ記シ
 タル書面ヲ差出スルノ外別段訴訟ノ手續ヲ
 為スニ及ハス○此訴訟ノ裁判言渡書ハ債主
 及ヒ其他呼出ヲ受ケタル者ノ代書師ヲ任シ
 タル時ハ其代書師ニ送達ス可シ

此裁判言渡ヲ控訴シタル時ハ第七百六十三
 條及ヒ第七百六十四條ノ如ク處置ス可シ
 第七百七十四條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)負債者ノ不動産ヲ書入レタ
 ル者ハ書入質ノ權ノ記入ノ寫書ヲ得ルノ費
 用及ヒ其記入ヲ為シタル債主等ニ報告民法
第ニ
千八百八十
三條見合ヲ為スノ費用ノ償ヲ他人ヨリモ先
 キニ得可キノ特權アリ
 第七百七十五條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム)債主ハ負債者ノ他人ヨリ償

ヲ得可キ權利ヲ保全ス可キ為メ其負債者ノ
 書入質ノ權ヲ記入スルヲ得可シ但シ其負
 債者ノ相當ノ順序ヲ以テ人ヨリ償ヲ得タル
 金高ハ債主ノ順序ヲ定ムル前ニ既ニ自己ノ
 書入質ノ權ヲ記入シタ債主又ハ其前ニ自己
 ヲ償ヲ得可キノ權アル者ヲ陳述シタル債主
 數人ニ之ヲ動産ニ等シク分派ス可シ

第七百七十六條 一千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定
 ムル訴訟ノ手續ヲ為ス代書師第七百五十三

條第七百五十五條ノ第二項第七百六十九條
 ニ記シタル法式ト定期トニ循ハサル時ハ別
 ニ裁判所ニ呼出ヲ受クルヲナク又別ニ裁判
 所ノ言渡ヲ受クルヲナクシテ其訴訟ノ手續
 ヲ為スノ權ヲ失フ可シ○掛リ裁判役ハ債主
 又ハ其他管係アル者ノ願ニ因リ又ハ自己ノ
 公務ノ以テ是迄ノ代書ヲ引易フハトテ言渡
 シ其言渡ヲ債主順序ノ調書ニ附記ス可シ○
 此言渡ハ之ヲ取消サント訴フルトテ許サス
 又別段任セラレタル代書師第七百五十八條見合第七

百五十八條及第七百六十一條ニ記シタル務
 ヲ行ハサル時ハ前項ニ記スル所ニ等シク他
 ノ代書師ト引易ヘラル可シ
 同上ノ訴訟ノ手續ヲ為スノ權ヲ失ヒシ代書
 師ハ速カニ其代任ノ代書師ニ證書類ヲ引渡
 シ其受取書ヲ取り置ク可シ且其權ヲ失ヒシ
 代書師ハ債主ノ順序ノ定マリタル後ニ非レ
 ハ其費用ノ償ヲ得可カラズ
 第七百七十七條 一千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム 負債者ノ不動産ヲ抵償トシ

テ差押ヘタル時其不動産ヲ糶ニテ買入レタ
 ル者債主ノ償ヲ得ル順序ノ調書ヲ成就スル
 前ニ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹セント欲スル
 時ハ其不動産ノ代金ト既ニ拂期限ニ至リシ
 其息銀トヲ役所ニ預ク可シ但シ其買入人ハ
 此事ヲ為ス前ニ債主等ニ其代金ノ提供ヲ為
 スニ及ハス
 若シ又債主ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ニ
 取掛ラサル時ハ不動産ノ買入人第七百五十
 條ニ記シタル定期ノ終リシ後其手續ニ取掛

ル可キイヲ訴フ可シ○其買入人其訴ヲ為ス
 ニハ代金ヲ預ケタル役所ノ受取書ヲ掛リ裁
 判役ニ差出シ且其代金ヲ預ケタルノ法ニ
 適シタル旨ト書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可
 キ旨トノ言渡ヲ得ント欲スルヲ陳述スル
 書面ヲ差出ス可シ
 第七百五十四條ニ記シタル債主等ノ其證書
 ヲ出ス可キ定期ノ終リニ時ヨリ八日內ニ同
 上ノ不動産買入人ハ其代書師ヲシテ債主等
 ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ且負債者ノ代書

師ヲ任セサル時ハ其負債者ニ呼出狀ヲ送達
 セシメ此等ノ者ニ裁判所ニ出席シテ己レノ
 差出シ置キタル書面ヲ檢視シ若シ故障アラ
 ハ十五日內ニ之ヲ述フ可キヲ要ム可シ○
 若シ其十五日內ニ故障ヲ述フルヲナキ時ハ
 掛リ裁判役買入人ノ代金ヲ預ケタルノ法
 ニ適シタル旨ト總テノ書入質ノ權ノ記入ヲ
 塗抹シ其權ヲ有スル債主等ハ其代金中ヨリ
 償ヲ得可キ旨トヲ言渡シ其言渡ヲ債主順序
 ノ調書ニ附記ス可シ○若シ又故障ヲ述ノル

者アル時ハ債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ遲延
 スルヲナク其故障ノ裁判ヲ為ス可シ
 又債主ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ニ既ニ
 取掛リタル時ハ同上ノ不動産買入人ヨリ其
 代金ト息銀トヲ役所ニ預ケタル後前文ニ等
 レキ言渡ヲ得ント欲スル陳述ヲ債主順序ノ
 調書ニ附記シ其代書師ヲシテ之ニ姓名ヲ手
 署セシメ且代金ヲ預リタル役所ノ受取書ヲ
 差出ス可シ○然ル上ハ債主等ノ其證書ヲ出
 ス可キ期限ノ終リレ後前文ニ記スル所ノ如

ク處置ス可シ
 又負債者ノ不動産ヲ差押ヘテ之ヲ糶賣ト為
 スヨリ更ニ他ノ方法ヲ以テ負債者ノ不動産
 ヲ賣拂ヲタル時其買入人一通り書入質ノ權
 ノ記入ヲ滌掃スル法式ヲ行ヒタル上總テノ
 書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ヲ全ク滌掃セシ
 ト欲スルニ於テハ其不動産ノ代金ト息銀ト
 ヲ役所ニ預ク可シ但シ其買入人ハ此事ヲ為
 ス前ニ債主等ニ其代金ノ提供ヲ為スニ及ハ
 ス○其買入人其代金及ヒ息銀ヲ役所ニ預ケ

ントスルニハ其賣主ニ十五日内ニ總テノ書
 入質ノ權ノ記入ヲ塗抹シタル證書ヲ渡ス可
 キトヲ要メ且其賣主ニ已ノ役所ニ預ク可キ
 總金高ヲ告知ス可シ○其十五日ノ期限ヲ經
 タル後其買入人代金ト息銀トヲ役所ニ預ケ
 其時ヨリ三日内ニ買入人役所ノ受取書ヲ掛
 リ裁判役ニ出シテ債主ノ順序ヲ定ムル手續
 ニ取掛ル可キトヲ願フ可シ○然ル上ハ其願
 ニ從ヒ前數項ニ記シタル如ク其順序ノ手續
 ニ取掛ル可シ

第七百七十八條 一千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム買入人其代金ト息銀トヲ役
 所ニ預クルトニ付キ故障ヲ述フル者アル時
 ハ其者其憑據ヲ債主ノ順序ノ調書ニ附記ス
 可シ若シ此手續ヲ為ササル時ハ其故障ヲ述
 ハタルノ効ナカル可シ○然ル上ニテ掛リ裁
 判役ハ其故障ノ裁判ヲ裁判所吟味ノ席ニテ
 受ク可キトヲ言渡ス可シ
 此事ニ付キ裁判所吟味ノ席ニ訴出スル者ハ
 其代書師ヲシテ其訴ニ管係アル他ノ者ノ代

書師ニ招書ヲ送ラシメ其吟味ヲ受クルニ付
 キ各其憑據ヲ記シタル願書ヲ出サシムルノ
 外別ニ訴訟ノ手續ヲ為スニ及ハス但シ此場
 合ニ於テハ第七百六十一條第七百六十三條
 第七百六十四條ニ記スル如ク處置ス可シ
 同上ノ買入人ハ其手續ヲ為シタル費用ヲ代
 金中ヨリ差引ク可キノ言渡ヲ得可シ

第七百七十九條 (千八百五十八年五月二十一
 日左ノ如ク改ム) 債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定
 ムル手續ヲ為ス間又ハ既ニ其順序ヲ確定シ

債主ニ其債ノ償ヲ得可キ書面ヲ渡シタル後
 ニ買入人其代金ヲ拂フヲ能ハサルニ因リ再
 ヒ不動産ヲ糶賣ト為スアル時ト雖モ債主
 ノ順序ヲ改メ定ムルノ手續ヲ更ニ為スニ及
 ハス○掛リ裁判役ハ再度ノ糶賣ノ模様ニ隨
 テ債主ノ其債ノ償ヲ得可キ書面ヲ點易シテ
 再度ノ買入人ヨリ其債ノ償トシテ代金ヲ受
 取ル可キ書面ヲ債主等ニ渡ス可シ

○第十五章 負債者ヲ禁個スル事

第七百八十條 債主ハ負債者ノ其債ヲ償ハサ

ルニ因リ之ヲ禁錮ス可キノ裁判言渡書ヲ其
 要決ノ書ト共ニ負債者ニ送達シタル時ヨリ
 一日ノ後ニ非レハ其言渡ノ如ク禁錮スルヲ
 得ス○此等ノ書面ハ其言渡書ヲ以テ別段
 任シタル使吏又ハ負債者所在ノ地ノ初告裁
 判所ノ上席人ノ別段任シタル使吏之ヲ送達
 ス可シ○其訴ヲ為シタル債主其言渡ヲ為シ
 タル裁判所所在ノ邑内ニ住セサル時ハ別段其
 地ニ住所ヲ撰ミタル旨ヲ同上ノ書面ニ附記
 ス可シ

第七百八十一條 左ノ場合ニ於テハ負債者ヲ
 名捕フ可カラズ

- 第一 日出ノ前及ヒ日没ノ後
- 第二 法律ニテ定メタル祭日
- 第三 寺院及ヒ禮拜堂ニテ拜神ノ式ヲ為
 ス時間
- 第四 官署ニテ官負會議シテ事務ヲ取扱
 フ時間
- 第五 如何ナル場所タルヲ問ハス人ノ住
 家内又ハ負債者自己ノ住家内但シ其地

ノ治安裁判役負債者ノ自己ノ住家又ハ
他人ノ住家内ニテ之ヲ名捕ヲ可キコトヲ
言渡レ使吏ト共ニ其家屋ニ至ル時ハ格
別ナリトス

第七百八十二條 又負債者訴訟ノ證人トナリ
テ懲治罪裁判所又ハ民法初告裁判所又ハ重
罪審院又ハ控訴院ニ呼出ヲ受ケ往来自在ノ
手形ヲ所持スル時ハ之ヲ名捕ヲ可カラズ但
シ其手形ハ負債者ヲ證人トシテ呼出シタル
裁判所ノ裁判役檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニ

テ之ヲ渡ス可シ○其手形ニハ其効アル可キ
期限ヲ記ス可シ若シ其期限ヲ記セサル時ハ
全ク其効ナシトス○負債者其手形ヲ所持ス
ル間ハ其證人トナリテ裁判所ニ出ルノ日又
ハ裁判所ニ往返スル時間之ヲ名捕ヲ可カラ
ス
第七百八十三條 負債者禁錮ノ調書ニハ通常
ノ呼出状ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ左件ヲ附
記ス可シ

第一 再次ノ要決

第二 債主負債者ヲ禁錮セントスル地、
邑内ニ住セサル時ハ別段其邑内ニ住所
ヲ擇ミタル事

使吏其調書ヲ送達スル時ハ補佐ノ為メ立合
二人ヲ伴行ス可シ

第七百八十四條 一度負債者ニ要決ノ書ヲ送
リタルヨリ滿一年ヲ過キタル後ハ別段任ヲ
受ケタル使吏更ニ負債者ニ要決ノ書ヲ送達
ス可シ

第七百八十五條 若シ負債者使吏ニ抗スル時

ハ使吏其負債者ノ走脱ヲ防ク可キ為メ其門
戸ニ番人ヲ置キ自カラ兵力ヲ借リニ赴ク可
シ但シ此場合ニ於テハ負債者治罪法ノ規則
ニ從ヒ犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第七百八十六條 負債者至急吟味ヲ受ケント
願フ時ハ其名捕ハレタル地ノ初告裁判所ノ
上席人ノ面前ニ呼出ヲ受ケ上席人至急吟味
ヲ為シテ之ヲ裁判ス可シ○又裁判所ノ聽訟
刻限外ニ名捕ハレタル時ハ負債者其上席人
ノ家ニ呼出サル可シ

第七百八十七條 至急吟味ノ裁判言渡ハ使吏ノ調書ニ記入シテ即時ニ之ヲ執行フ可シ

第七百八十八條 負債者至急吟味ヲ受ク可キ

一ヲ願ハス又ハ至急吟味ヲ願フト雖モ裁判

所ノ上席人其願ヲ聞届ケサル時ハ負債者ヲ

其地ノ獄舎ニ入レ若シ其地ニ獄舎ノアラサ

ル時ハ最近ノ獄舎ニ入ル可シ○負債者ヲ禁

錮スル為メ法律上ニ定メ置キタル以外ノ場

所ニ負債者ヲ連行キ又ハ受取リタル使吏及

ヒ其他ノ者ハ法ニ背キテ入ヲ禁錮シタルノ

罰ヲ受ク可シ

第七百八十九條 獄監ノ負債者ヲ受取リタル

調書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 負債者名捕ノ言渡書

第二 債主ノ姓名住所

第三 債主獄舎ノアル邑内ニ住セサル時

ハ別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル事

第四 負債者ノ姓名居所職業

第五 債主負債者ノ養料ヲ少クトモ一ケ

月分官署ニ預ケタル事

第六 負債者禁錮ノ調書一通及ヒ獄監ノ
負債者ヲ受取リタル調書一通ヲ負債者
ニ渡シタル事

獄監ノ負債者ヲ受取タル調書ニハ使吏其姓
名ヲ手署ス可シ

第七百九十條 獄監ハ其簿冊ニ名捕ノ言渡書
ヲ登記ス可シ○若シ使吏其言渡書ヲ獄監ニ
示サ、ル時ハ獄監負債者ヲ受取リ之ヲ獄ニ
入ル、ヲ承諾ス可カラス

第七百九十一條 債主ハ豫メ負債者ノ養料ヲ

官署ニ預ケ置ク可シ○若シ此迄負債者ヲ禁
錮セシメタル債主其負債者ヲ赦ス時更ニ他
ノ債主猶之ヲ禁錮ニ置カント為スニ於テハ
以前ノ債主其預ケ置キタル負債者ノ養料ヲ
取戻ス可カラス但シ後ニ其負債者ヲ禁錮セ
ントスル債主ノ承諾ヲ得タル時ハ格別ナリ
トス

第七百九十二條 負債者其債ヲ拂ハサルニ因
リ債主ノ為メニ獄舎ニ禁錮セラレ其債主ノ
赦ヲ得タル時ニ至テ之ヲ禁錮セシムルヲ得

可キ他ノ債主更ニ猶之ヲ禁錮シ置クヲ得
 可シ○又是迄罪ヲ犯シタルニ因リ獄ニ禁錮
 サレタル者其罪ノ赦ヲ受ケ且獄ヲ出ツ可キ
 ノ言渡ヲ得タル時其債主ハ猶之ヲ獄ニ禁錮
 シ置クヲ得可シ

第七百九十三條 是迄禁錮ヲ受ケタル負債者
 ヲ債主猶禁錮シ置カント欲スルニハ初メ之
 ヲ禁錮スル時ニ等シキ法式ヲ行フ可シ但シ
 此場合ニ於テハ使吏其立會人ヲ伴行スルニ
 及ハス又以前ノ債主嘗テ負債者ノ養料ヲ預

ク置キタル時ハ猶之ヲ禁錮セント欲スル債
 主別ニ其養料ヲ出スニ及ハス
 以前負債者ヲ禁錮セシメタル債主ハ其禁錮
 ヲ繼續セシメント欲スル債主ヲシテ已レハ
 預ケ置キタル養料ノ平等ナル一部ヲ擔當セ
 シムルヲ其獄舎ノ地ノ初告裁判所ニ訴フ
 ルヲ得可シ
 第七百九十四條 債主前數條ニ定メタル法式
 ヲ行ハサル時ハ負債者其禁錮ノ言渡ヲ取消
 スノ訴ヲ為スヲ得可シ但シ其訴ハ獄舎ノ

アル地ノ裁判所ニ之ヲ為ス可シ○若シ又負債ノ訴ノ本案ニ付キ其禁錮ノ言渡ヲ取消サントスル時ハ其言渡ヲ執行ノタル裁判所ニ其取消ノ訴ヲ為ス可シ

第七百九十五條 何ノ場合ニ於テモ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消サントスル訴ヲ為スニハ裁判役ノ允許ヲ得タル上急速ニ之ヲ為シ特ニ任ヲ受ケタル使吏債主ノ別段擇ミタル住所獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書ニ記セシモノニ呼出狀ヲ送達ス可シ但シ其訴ハ裁判所ニテ檢察官ノ説ヲ聽キ

タル上急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第七百九十六條 如何ナル原由ニ付キ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消シタルト雖モ之ヲ取消シタルニ因リ他ノ債主ノ猶其負債者ヲ禁錮ニ置ク可キヲ取消ス可カラス

第七百九十七條 禁錮ノ言渡ノ取消ヲ得タル負債者ハ其獄ヲ出テタルヨリ少クモ一日ノ後ニ非サレハ同一ノ負債ニ付キ名捕ラルハ
トナカル可シ

第七百九十八條 負債者ハ其禁錮ヲ受ケシ原
由タル負債ノ金高ト名捕ノ費用トヲ獄監ニ
預ケテ自由ヲ得ルコトヲ得可シ

第七百九十九條 負債者禁錮ノ言渡ノ取消ヲ
得タル時ハ債主其負債者ニ損失ノ償ヲ為ス
可キノ言渡ヲ受ルコトアル可シ

第八百條 禁錮ヲ受ケタル負債者ハ左ノ諸件
ニ因リ其自由ヲ得ルコトヲ得可シ

第一 禁錮ヲ為サシメタル債主ノ承諾及
ヒ其禁錮ヲ繼續セシメントスル他ノ債

主アル時ハ亦其債主ノ承諾

第二 禁錮ヲ為サシメタル債主及ヒ其禁
錮ヲ繼續セシメントスル債主ニ負債ノ

金高並ニ其息銀及ヒ訴訟ノ費用高禁錮
ノ費用高並ニ債主ノ出セシ養料ヲ拂ヒ
又ハ之ヲ官署ニ預クル事

第三 負債者己ノ財産ヲ盡ク債主ニ拋棄
スル事 民法第一千二百六十八條見合

第四 債主預メ負債者ノ養料ヲ預ケサル
事

第五 負債者七十歳ノ齡ニ至リシ時但シ

此場合ニ於テモ負債者「ステリヲナシ」民法

第二十五九條見合セノ處ニアル時ハ格別ノリト
ス

第八百一條 債主其負債者ヲ自由ニ為ス_トヲ

承諾スル旨ハ公証人ノ面前ニテ之ヲ書面ニ

記シ又ハ獄監ノ負債者ヲ受取ル書面ヲ記シ

タル簿冊ニ之ヲ記入ス可シ

第八百二條 負債者別ニ裁判ノ言渡ヲ得ス_シ

テ其負債ノ金高ヲ獄監ニ預クル_トヲ得可シ

若シ獄監之ヲ受取ル_トヲ肯セサル時ハ負債

者別段裁判所ノ允許ヲ得テ其獄監ヲ速カニ

裁判所ニ呼出ス可シ但シ其呼出狀ハ別段任

ヲ受ケタル使吏之ヲ送達ス可シ

第八百三條 若シ債主負債者ノ養料ヲ預ケサ

ル時ハ獄監其旨ヲ證スル請合書ヲ負債者ニ

渡シ負債者ノ自由ヲ得ント求ムル所ノ願書

ニ添ヘ之ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シタル上

別ニ債主ヲ呼出ス_トナク裁判所ニテ其自由

ヲ得可キ旨ヲ言渡ス可シ

然ハ債主負債者ノ養料ヲ預クルトテ遅延シタル場合ニ於テ負債者其自由ヲ得ント欲スル願ヲ為ス前ニ債主其養料ヲ預ケタル時ハ裁判所ニ於テ負債者ノ自由ヲ得ントスル願ヲ取上ク可カラス

第八百四條 債主ノ養料ヲ預ケサルニ因リ負債者其自由ヲ得タル時ハ債主其負債者ニ其自由ヲ得ル手續ニ付テノ費用ヲ償ヒ又負債者之ヲ受取ルトテ肯セサル時ハ之ヲ裁判所ノ書記官ニ預ケ且預メ負債者ニ給ス可キ六

ケ月ノ養料ヲ預クルニ非サレハ債主其負債者ヲ再ヒ禁錮セシムルトテ得ス○債主一度自由ヲ得タル負債者ヲ再ヒ禁錮セント為スト嘗テ要決ノ書ヲ送リタルヨリ一年内ナル時ハ更ニ禁錮ヲ為サシムルノ手續ヲ改メ為スニ及ハス

第八百五條 負債者自由ヲ得ントスル訴ハ其禁錮ヲ受ケタル獄舎所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ為ス可レ○其訴ヲ為スニハ先ツ其旨ヲ裁判役ニ願ヒ裁判役ノ允許ヲ得タル

上債主ノ嘗テ擇ミタル住所ニ急速ニ呼出狀ヲ送達ス可シ又其訴ノ旨ヲ檢察官ニ報告シタル上別段ノ手續ヲ為スニ及ハス遲延ナク他ノ訴ヨリ最モ先キニ其訴ヲ裁判ス可シ

○第十六章 至急吟味ノ事

第八百六條 總テ至急ノ場合ノ時又ハ裁判言渡ヲ執行ノ可キ證書ノ如ク執行ヒ又ハ裁判言渡書ノ如ク執行ノ付テノ故障ヲ裁判ス可キ時ハ左ノ如ク之ヲ處置ス可シ

第八百七條 至急吟味ヲ願フ訴ハ裁判所ヨリ

定メタル日刻ニ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ別段設クル所ノ吟味ノ席ニテ之ヲ為ス可シ

第八百八條 若シ又別段至急ナルヲ要スルアル時ハ裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可キ裁判役至急吟味ヲ願フ訴ヲ受ケタル一日内ニ其祭日タルヲ問ハス別段制限ヲ定メ被告入ヲ裁判所吟味ノ席ニ呼出シ又ハ其上席人又ハ其代員ノ住宅ニ之ヲ呼出ス可キヲ原告人ニ許ス可シ但シ此場合ニ於テハ原告人

其上席人又ハ其代負ノ允許ヲ得タル上其別
段任シタル使吏ヲシテ被告人ニ其呼出狀ヲ
送達セシムルニ非サレハ其呼出ヲ為スヲ
得ス

第八百九條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡ハ訴訟
ノ本案ノ害トナルヲナカル可シ○其裁判言
渡ハ別ニ保證人ヲ立ルヲナク假ニ之ヲ執行
ノ可シ但シ裁判役ヨリ別ニ保證人ヲ立ツ可
キヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス
同上ノ裁判言渡ハ抗傳者其故障ヲ述フル

ヲ得ス

同上ノ裁判言渡ニ服セサル者控訴ヲ為シ得
可キヲ法律上ニテ允許シタル場合ニ於テ
ハ其言渡ヨリ八日ノ期限ニ至ラサル内ト雖
凡之ヲ為スヲ得可シ又一方ノ者其裁判言
渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十五日ノ後ニ至ル
時ハ其控訴ヲ為スヲ許サス
其控訴ハ別段手續ヲ為スヲナク急速吟味ノ
法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第八百十條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡書ノ正

本ハ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ
 第八百十一條 然ル極メテ切迫ナルトアル時
 ハ裁判役其言渡書ノ正本ヲ以テ其言渡ノ如
 ク執行ノ可キノ證書ト為ス
 可シ

辻 士革 校

佛蘭西訴訟法六終

